

2 育てるカウンセリングを生かした対話のある授業の実際

「だいすき ふぞくしょうがっこう」(第1学年)

(1) 「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

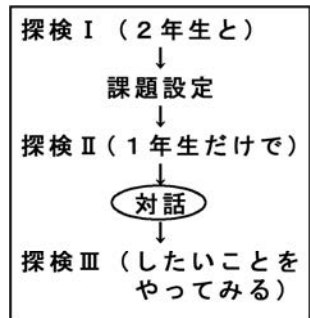
これまでの経験と学校探検で出会ったひと・もの・ことを結び付けながら、学校での生活のしかたを知り、学校で自分がしてみたいことを見いだす力

【「思考力」の育成に向かう対話】<拡散型>

学校探検を通して見つけた好きな場所を紹介し、その場所でできそうなことについて話し合う。

本単元では、子どもたちが学校のことを詳しく知り、楽しく安心して生活できるようにするために、学校探検を3回行った。それらの過程で、例えば「図書室の先生が本の貸し出しをしてくれるよ。図書館と同じでバーコードをピッとしてもらって借りるよ。」や「お家よりもたくさん本があるから、いろいろな本を借りて読みたいな。」等と、日常生活におけるこれまでの経験と学校探検で出会ったひと・もの・ことを結び付けながら、学校での生活のしかたについて理解を深めていくようにした。また、探検後には、校内で見つけた事柄を共有し合い、次の活動への意欲を高めることで、学校での生活について分かったことから「昼休みに体育館で友達とバスケットボールがしたい。」等と自分が学校でしてみたいことを見いだしていくと考えた。それによって学校生活に主体的に取り組むようになり、楽しく生活できることをねらった。

2回目の探検後に、好きな場所とそこでできそうなことを紹介し合い、互いの異なる考えを共有する拡散型の対話を行うことで、校内の各場所でできそうなことについての考えが広がり、上記「思考力」が育成されると考えた。上記対話を通して、自分が選んだ場所への興味が深まったり、選んでいない場所への関心が高まったりし、「音楽室へ行って、鉄琴をたたいてみたい。」や「図書室の先生に読み聞かせをしてもらいたい。」等という思いにつながっていくと考えたのである。



【単元のおおまかな流れ】

(2) 対話への支援

① 多様な考えが表出される授業構成

～体験、経験したことや既習の学びを段階的に想起させる～

実態：学校探検を通して見つけた事柄の中から、目立つものや印象的なことは想起できても、そこで出会ったひとのことは想起されにくいことが予想された。

支援：学校探検の写真を段階的に提示しながら、訪れた場所について詳しく想起させた。

② 育てるカウンセリングを生かした支援

ア 本単元内で直接行う支援

実態：Q-Uの結果より、学級内で認められていないと感じている子どもが10名程度いた。そのような意識が授業中の消極的な態度につながっているように思われた。

支援：A児のように、周りから認められていないという意識から自分に自信がもてず、対話




に対して意欲が高まりにくい子どもを中心に、正のフィードバック*¹を行い、子ども一人一人のよさを積極的に称賛した（対話の雰囲気）。

イ 本単元外での活動を想起・活用させる支援

実態：Q-Uの結果から、学級の大部分の子どもは友達の話最後まで聴いているという意識であった。しかし、自己中心性が強い1年生という発達段階もあり、発表はできても聴くことが苦手な子どもが多いように見受けられた。

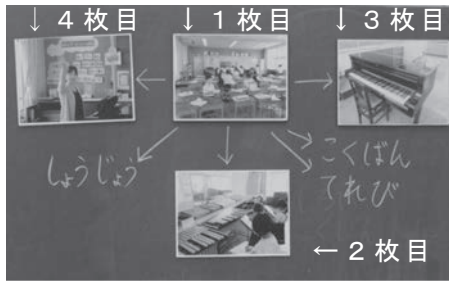
支援：朝の活動等で行った「元気の出る聴き方」*²「そうだねゲーム」*²といった活動を想起させるために、笑顔でうなずいている子どもの絵と共に吹き出しで「そうだね」「いいね」のことばを提示した（対話の技能）。

（3）本実践における授業の実際

場面	授業づくり	実践の詳細
学習問題の設定		<p>前時までの学校探検を通して、校内のいろいろな場所で子どもたちは、たくさんのものやひと、ことに出会い、気付いたことを絵とことばで記録していた。例えば、理科室で骸骨を見つけた子は「理科室で勉強がしたい」、ウサギ小屋でウサギを見つけた子は「ウサギにえさをあげたい」という思いを抱き始めていた。それらの思いから、本時の学習問題を設定した。</p>
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">好きな場所でどんなことができるだろう</div>	
多様な考えの表出	<p>子どもたちにとって想起しにくいひとのことも想起できるように、まず場所を想起させた。</p> <div data-bbox="272 1384 676 1653" style="text-align: center;">  <p>【まず、音楽室を想起】</p> </div> <div data-bbox="427 1731 520 1827" style="text-align: center;">  </div> <p>その後、そこで見つけたものや出会ったひとを想起できるように黒板にもものや、ひとが写った写真を提示した（授業構成）。</p>	<p>子どもたちは、発見カードに記録したことを見ながら探検した場所に何があったかを思い出した。</p> <div data-bbox="858 1352 1321 1608" style="text-align: center;">  <p>【発見カードを見ながら振り返る】</p> </div> <p>そして、音楽室を例に、以下のようにより詳しく思い出していくようにした。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T：ここはどこですか。（1枚目の写真を提示）</p> <p>C：音楽室です。（ほぼ全員）</p> <p>T：音楽室では、何を見つけましたか。</p> <p>C1：鉄琴がありました。（T：2枚目を提示）</p> <p>C2：もう一つあります。ピアノです。（T：3枚目を提示）</p> </div>

「*」…101頁参照

多様な考えの表出



【より詳しくひと・もの・ことを想起】

C3: それと、テレビがありました。
 C4: 賞状もありました。
 C5: 黒板もありました。
 T: いろいろ見つけられて、すごいですね。(4枚目を取り出す。)
 C6: 溝渕先生がいました。
 T: そうですね。他の場所でも、見つけたものや出会ったひとを思い出して、その場所でできそうなことが考えられそうですか。
 このようにすることで、「音楽室で歌が歌える。」や「理科室で理科の勉強ができる。」等と、子どもたちはそれぞれの場所でできそうなことを多様に考えていった。

ペア対話

授業全体を通して、「はきはきした声で言えましたね。」や「カードをよく見て、思い出せましたね。」等の子どもを認める声かけを行った。その中でも、特にペア対話の机間指導の際、子どもの聴き方や話し方のよさを積極的に褒め、認めるようにした(雰囲気)。

下の図を示して、朝の活動を想起できるようにした。そして、対話の際に話し手の方を向き、話し手を見て、「そうだね」や「いいね」等と応じながら、話が聴けるようにした(技能)。



【朝の活動を想起】

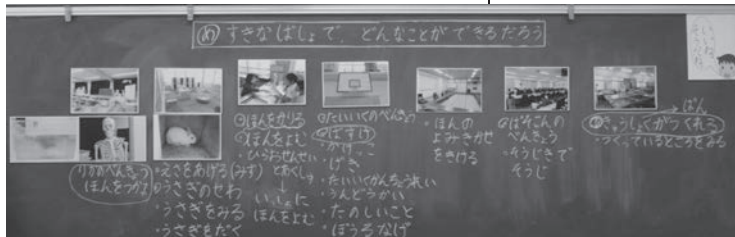
ペア対話では、自分が選んだ好きな場所で、できそうなことを紹介し合った。活動の前には、代表の子ども一人と教師でデモンストレーションを見せることで、ペア対話の手順を共通理解した。
 以下は、A児のペア対話での様子である。
 A: 僕の好きな場所は理科室です。理科室でできることは理科の勉強です。
 C7: いいね。私の好きな場所は、うさぎ小屋です。(できることは)うさぎにえさをやることです。
 T: 上手に伝えられましたね。もっとたくさんお話できますか。
 C7: 体育館でボール遊びができます。

上記の例に見られるように、「いいね」や「そうだね」ということばを用いながら受容的に話を聴く子どもが多く見られた。相手の方を向いて話を聴くという意識がまだ低い子どもも見られたが、学級全体としては対話の技能の高まりを感じられた。



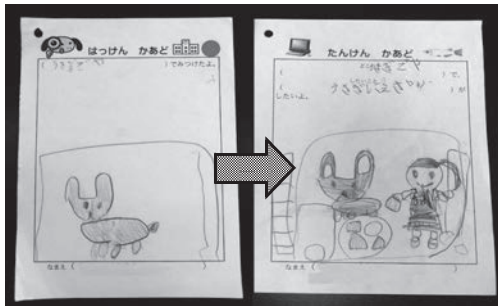
【ペア対話の様子】

全体対話



【場所ごとにしたいことをまとめた板書】

全体対話において、各場所できそうなことが多様に出てきた。したいことを互いに聴いたり、板書を見たりすることで共有していった。



【見つけたことからしたいことへ】

友達の発表に続けて、「わたしも、うさぎ小屋でうさぎにえさやりがしたい。それと、掃除がしたい。」や「体育館でバスケットボールがしたい。」等の発表があった。初めは、体育館でしたいことを考えていた子どもが、運動場でもしたいことを見いだす等、子どもたちはそれぞれの好きな場所ですまざまなしたいことを見いだしていった。

(4) 考察

① 成果

写真の提示のしかたを段階的にしたことで、子どもたちはまず場所に着目し、そこからさらにその場所で見つけたものや出会ったひと、これまでに経験したことを多様に思い出して、そこで何ができるかを考えられた。また、対話の場面で朝の活動を想起し、「そうだね」や「いいね」といったことばを用いながら、友達の話を聴く子どもが見られた。

朝の活動で聴くことの大切さを確認した後、継続してよりよい聴き方を確かめてきたため、話を聴く意識が高い子どもが増え、対話の意欲が高まってきたのだと思われる。

子ども	授業開始時の考え	授業の終末での考え
i	・体育館で、走ることや、バスケットボールがしたい。	・体育館で、友達とおにごっこがしたい。 ・運動場で友達と遊びたい。
ii (A児)	・好きな場所は給食室で、給食を作りたい。	・うさぎ小屋の整理がしたい。 ・うさぎのために滑り台を作りたい。

上記の子どもの様相から、対話を通して友達の考えを聴き、自分がしたいことについて考えが広がったり、付加されたりしたことが見取れ、「思考力」の向上が見られた。

② 課題

授業構成の支援は、子どもたちに想起させる支援として有効であったが、探検した場所を次々に取り上げたために、子どもによっては興味がわからない場所もあり、意欲が継続しにくい場面があった。すべての場所を同じように扱うのではなく、音楽室以外の場所については、もっと軽重をつけて取り上げるべきであった。そうすれば、子どもにとって必要感がある対話ができたとと思われる。

対話への支援では、「いいね」や「そうだね」で終わるのではなく、その後続くことばが出てこないと思われないという指摘を受けた。確かに、「どうして」や「どんな」等のことばを続けて対話をすれば、より自分がしてみたいことが明確になったであろうし、そうした対話での発言を具体的に褒めることで、対話の雰囲気をもっと作り出せたと思われる。また、「正のフィードバック」については、単に褒めて認めるだけでなく、もっと子どもたちが達成感を得られたり、学習意欲を継続できるような声のかけ方、認め方を工夫していかなければならないと感じている。

以上のような改善を行えば、対話を通して子どもたちが互いの考えを伝え合う中で、友達の考えを参考にしながら個々の考えをもっと広げられたであろう。そして、「思考力」をより確実に高められたと考える。